

# 入江地区 カルテ

## データについて

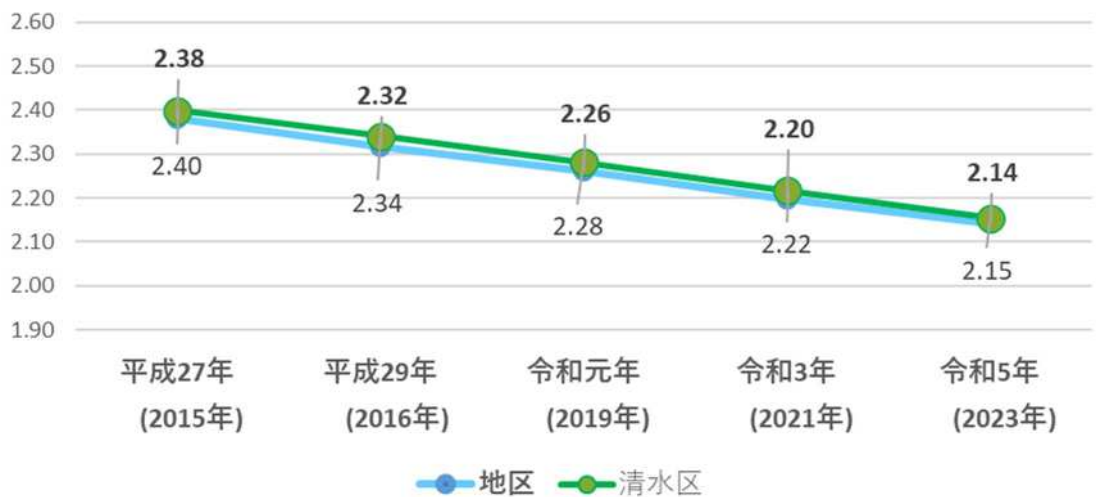
- ・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。
- ・住民基本台帳は各年の3月31日の数値、自治会加入数は各年の4月1日の数値です。
- ・町名は住民基本台帳を採用しているため、自治会名と一部異なる場合があります。

**入江地区の人口特性 令和5年3月 12,418人 5,800世帯 2.14人/世帯**

●人口・世帯数の推移



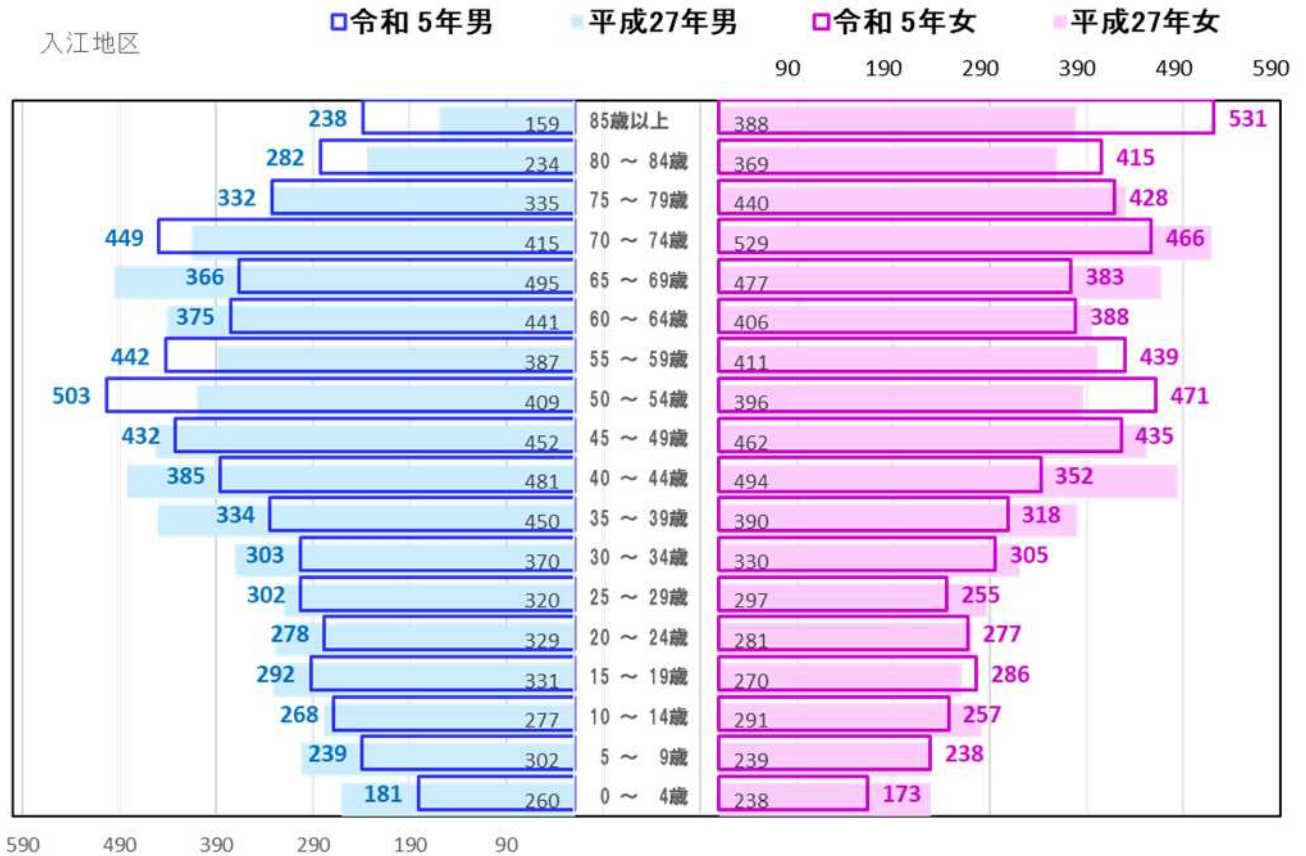
●一世帯当たりの人口推移



●65歳以上の高齢者を支える生産年齢層 (15-64歳)

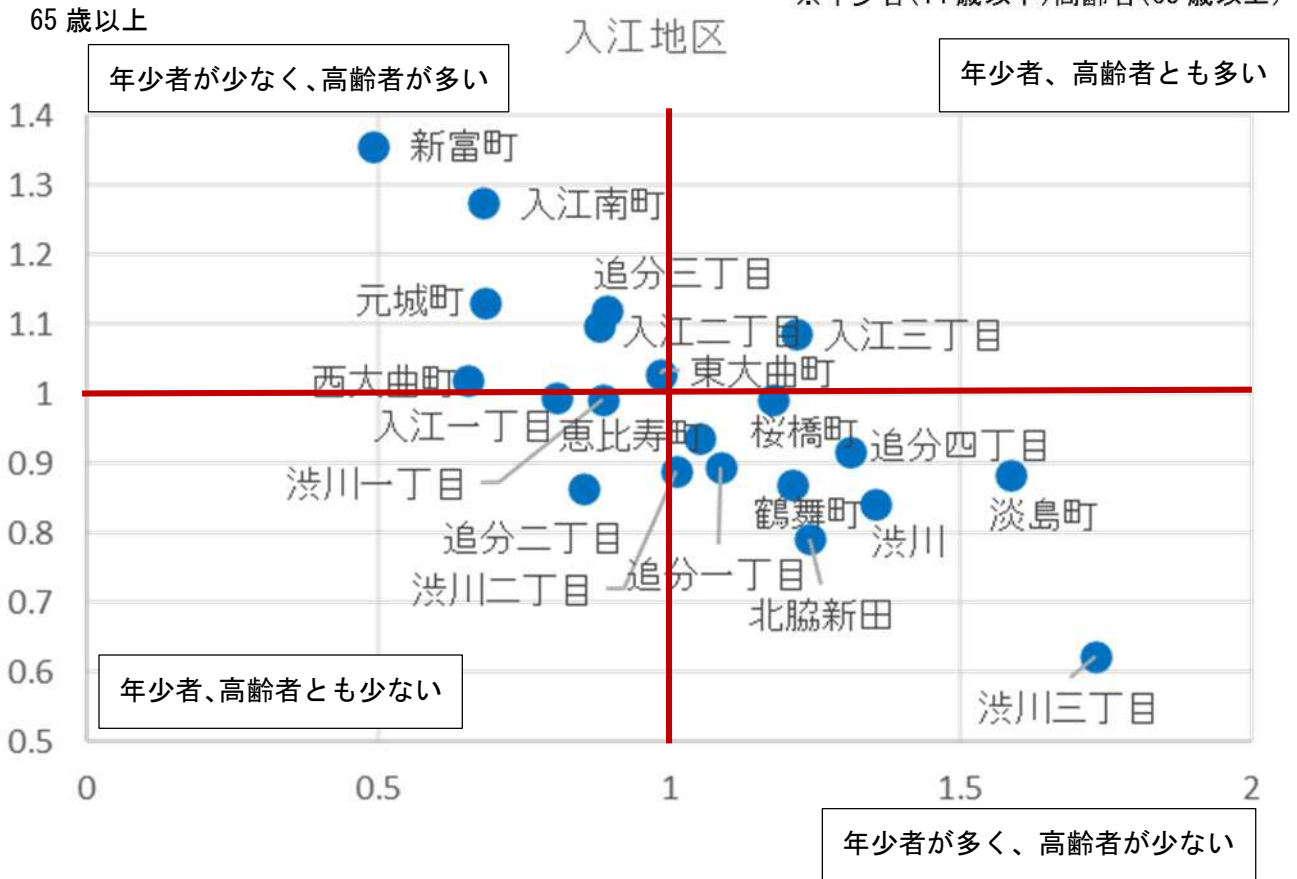
区分	平成27年 (2015年)	令和5年 (2023年)
地区	2.01人	1.84人
静岡市	2.16人	1.88人
清水区	1.98人	1.71人

●人口ピラミッド【平成27年(2015年)と令和5年(2023年)の5歳階級別男女別構成】



●町別の14歳以下と65歳以上の割合分布(清水区の平均値を1とした場合)

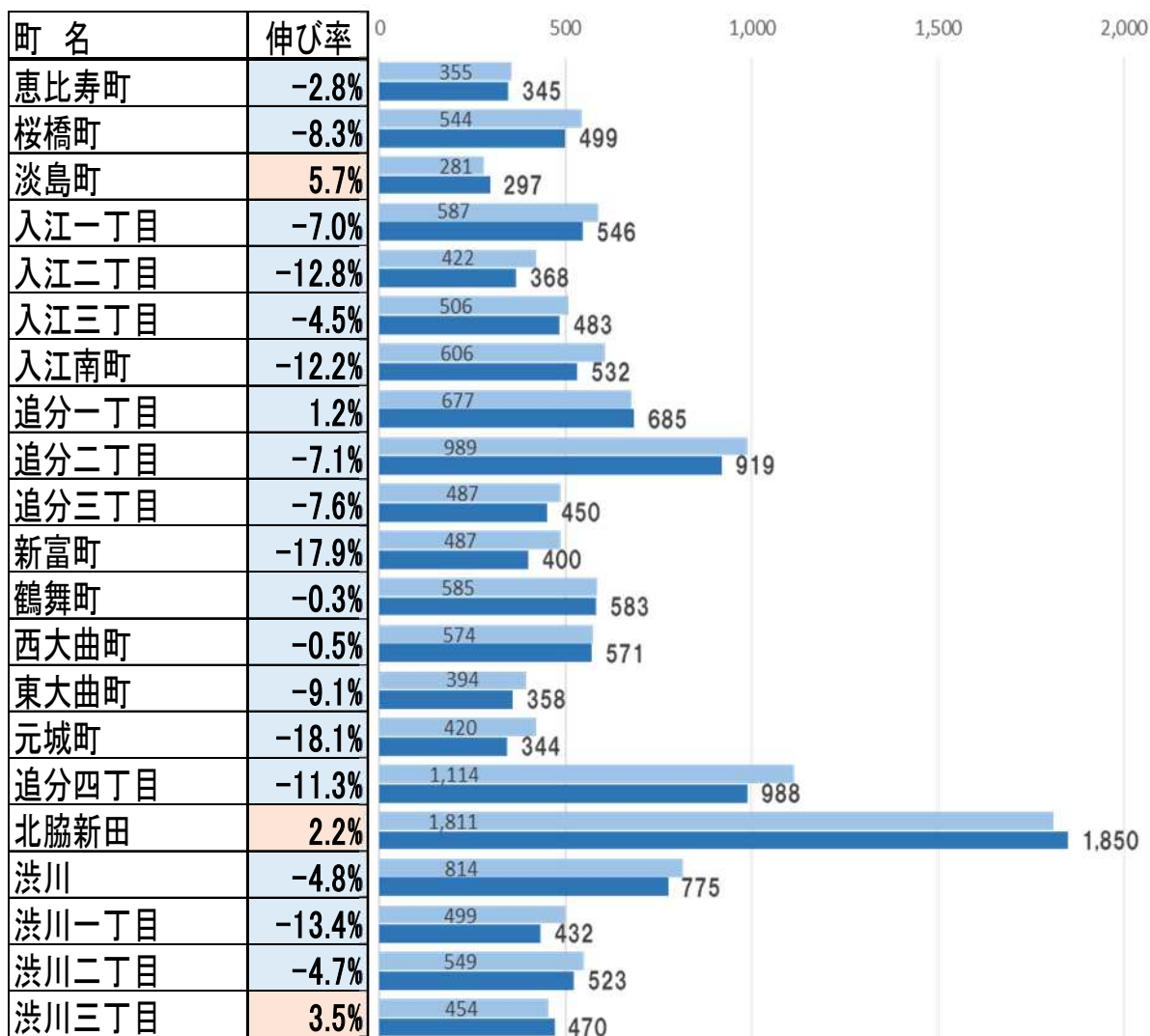
※年少者(14歳以下)高齢者(65歳以上)



●町別の伸び率と人口推移

【平成 27 年（2015 年）と令和 5 年（2023 年）の比較】

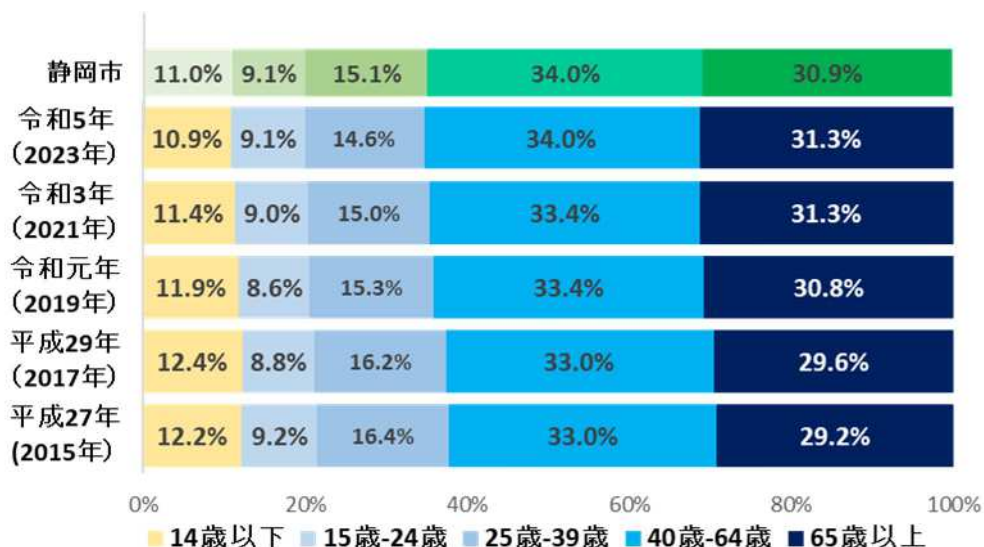
人口推移グラフ（上段平成 27 年 下段令和 5 年）



		人 口	
		平成 27 年 (2015 年)	令和 5 年 (2023 年)
入江地区	-5.6%	13,155	12,418
静岡市	-4.6%	713,564	680,913

●町別人口区分別割合

・年齢5区分別人口割合の推移



※15-24歳は高校から社会人(大学修士課程含む) 25-39歳は社会人(大学博士課程含む)

・令和5年人口3区分別：

市の割合より

青字 14歳以下の割合が低い場合

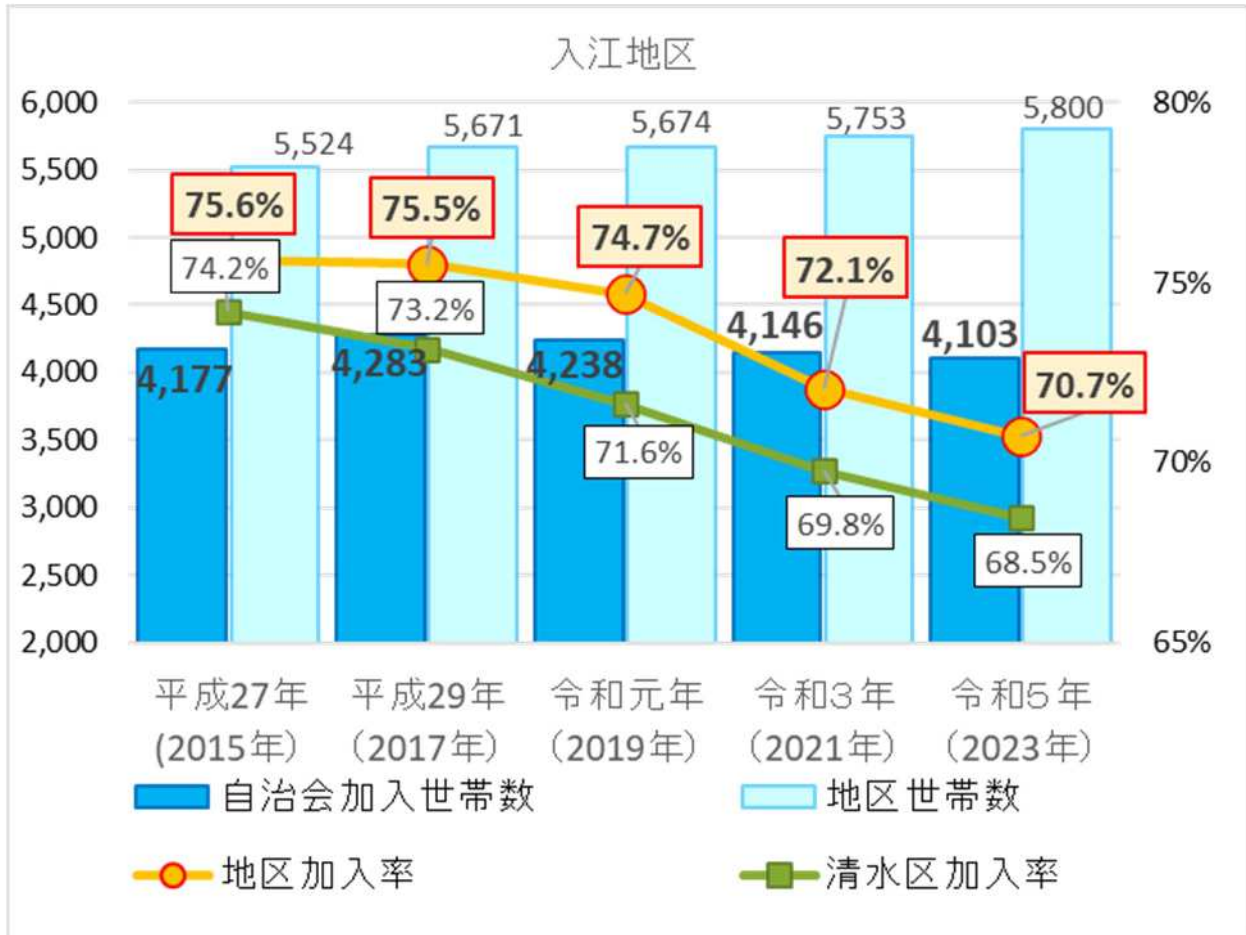
赤字 65歳以上、75歳以上の割合が高い場合

町名	令和5年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
恵比寿町	10.7%	31.0%	18.8%
桜橋町	12.0%	32.9%	21.0%
淡島町	16.2%	29.3%	15.5%
入江一丁目	8.2%	33.0%	20.5%
入江二丁目	9.0%	36.4%	19.8%
入江三丁目	12.4%	36.0%	17.8%
入江南町	7.0%	42.3%	26.1%
追分一丁目	11.1%	29.6%	16.2%
追分二丁目	8.7%	28.6%	16.2%
追分三丁目	9.1%	37.1%	19.8%
新富町	5.0%	45.0%	28.5%
鶴舞町	12.3%	28.8%	15.8%
西大曲町	6.7%	33.8%	18.7%
東大曲町	10.1%	34.1%	18.7%
元城町	7.0%	37.5%	22.7%
追分四丁目	13.4%	30.4%	21.1%
北脇新田	12.6%	26.2%	13.4%
渋川	13.8%	27.9%	16.6%
渋川一丁目	9.0%	32.9%	19.2%
渋川二丁目	10.3%	29.4%	16.3%
渋川三丁目	17.7%	20.6%	8.7%
入江地区	10.9%	31.3%	17.9%
清水区	10.2%	33.2%	18.7%
静岡市	11.0%	30.9%	17.2%

●自治会加入状況

令和5年

加入率	地区	70.7%	加入世帯数	4,103世帯
	清水区	68.5%	住民基本台帳世帯数	5,800世帯



入江地区コメント

- ・人口は減少傾向を示し、世帯数は増加傾向にあります。世帯人数も減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。
- ・人口の減少地区がほとんどですが、微増している地区(淡島町、北脇新田、渋川三丁目)も見られます。
- ・令和5年の65歳以上を1人支える生産年齢(14歳から65歳)が1.8人となり、若い世代が地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。
- ・さらに、自治会の加入率が市の値69%より高い71%ですが、年々減少傾向にあり、40歳から64歳の自治会活動等で中心的に活躍を期待される層の減少も見られます。



# 入江地区

## 地名のゆかり

入江地区は古代、岸辺に芦(あし)が茂った入海で、港があったと伝えられていて、入江という地名は、この地形から起こったものと思われています。既に平安時代には、この辺りは「入江の浦」と呼ばれ、「入江の荘」という荘園を、藤原維清が入江右馬介と称して治めていますから、由緒ある地名と言えましょう。

その後、入江の荘は広がり、梶原景時を討ったことで知られる吉川小次郎など入江一族が栄えましたが、戦国時代に滅亡し、それら豪族の夢の跡は、清水区内の「殿屋敷」「馬場」などという地名に残されています。



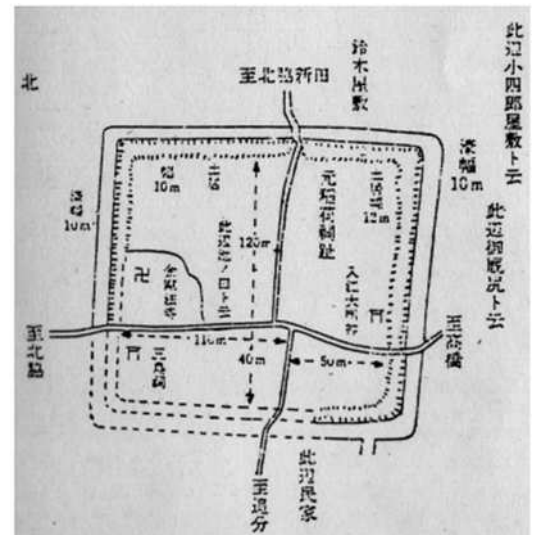
昭和初期の入江1丁目

## 渋川館

領主や郎党の屋敷、社寺、百姓の家を堀で囲んだ、中世の武士の住居は「中世武士の館」と呼ばれていますが、その遺構が渋川に残されていて、全国的にも珍しいと言われています。

これは、鎌倉時代に活躍した入江一族の渋川氏が住んでいた「渋川館」の遺構で、有度山の末端が平地に埋没する地点の、渋川の三島神社北側にあります。

東西200m、南北200mの方形と推定される渋川館は、土塁で囲まれ、さらにその外側を堀で囲まれていました。その土塁の一角が、高さ3m、幅10mの土堤として、今も原形をとどめています。また、堀の内側には、「池の田」、外側には「鈴木屋敷」、「小四郎屋敷」、「御廐尻」などという地名が残っています。これらのうち、池の田は領主の水田だったところで、鈴木屋敷は、かつてここから刀ややりの鉄片が発掘されたことがあることから、鍛冶屋敷だったと言われています。



渋川館跡の図

## 志みづ道

追分2丁目の追分羊かん本店のすぐ左側に、高さ1.4m、幅0.4mのみかげ石でつくられた道標が立っています。この道標には、正面に「是より志みづ道」、左側に「南無妙法蓮華経」と彫られています。

ここが、その昔、東海道から清水港方面へ行く追分(分岐点)だったのです。東海道をここから南に折れ、入江小学校の校庭に沿って二本塚を通り、市民会館の横を通過して久能道(入江岡橋の通り)と交差し、清水方面へ通じていたのが、この志みづ道です。

この道がいつごろからあったのかは分かりませんが、道標に実相院法入日中という元禄年間(1688~1704)の僧の名だと思われる名が記されているので、おそらくそれ以前からあったのでしょう。いずれにしても、当時このあたりにあった数少ない道の一つで、と駿府(静岡)の行き来に、重要な役割を果たしていたと思われています。



追分2丁目にある道標



## 法岸寺の朝顔日記「深雪の墓」

南小路角から50m程西に行った左奥に法岸寺があります。市内でも数少ない浄土宗で、創立は延徳2年（1490）静岡市上土に創建されていました。駿遠の国主、今川氏の帰信厚く、母君追善供養のため建立されたと言います。本堂左手奥に朝顔の墓と伝えられている古い墓石があります。浄瑠璃「朝顔日記」盲目のヒロイン深雪の墓であると言われています。

深雪は秋月長門守の娘で、宮城阿曾次郎と宇治の蛸狩りで恋仲となりましたが、秋月家国元の騒動のために別れることとなり、その後、深雪はさまざまな辛苦に盲目になってしまいました。



深雪の墓

## いちろんさんのでっころぼう

保元の乱に敗れた源為朝が伊豆大島に流される時、下清水の月見里稲荷神社に愛用の石印と笠を奉納したと伝えられています。為朝は非常に強い武将であったため、自分の子供が為朝のように強い人になるように希望し、夜泣きをする虚弱な子供に、遺品の笠を被せれば夜泣きが治ると云われていました。京都から来た武士の人形師「市郎右衛門」が為朝の似顔像を造るのが上手で評判でした。何時しか「笠かむり」のかわりにこの人形を枕元におき、夜泣きが収まると新しい人形を納めに行くようになりました。これが近郷の風習となり、市郎右衛門の木偶(でく)の坊(ぼー)が清水言葉の「いちろんさんのでっころぼう」と言われるようになりました。

## 「姥(うば)ヶ池のお話し」

昔、追分に金谷長者といわれる大金持ちが住んでいました。村人たちからは「長者さま」と慕われておりましたが、長者さまの家には子供がなく、とても淋しい思いをしていました。

長者さまは夫婦で神仏に子供を授かるようお願いにいき、ついに玉のような男の子が生まれました。「大吉」と名付けられた男の子は大事に育てられましたが、そうこうしているうちに百日咳にかかってしまいました。乳母のおかねは咳がひどくなる大吉を見かね、大吉と遊びに来ていた池のそばの弁天様をお願いをしました。「私の命とひき替えに大吉坊やの咳を治して下さい」おかねは池に身を投げてしまいました。

すると不思議にもあんなに苦しんでいた大吉の咳が治まり、日に日に元気になっていきました。長者さまは弁天さまと乳母のおかねに感謝して池のそばの祠を立派に建て直しねんごろにおまつりをしました。

それからというもの、この池に来て「姥よ、姥よどうぞ咳を治して下さい」とお祈りをすると、池の水がブクブクと泡を出し必ず咳が治ったといわれています。

そこで、この池を「姥ヶ池」と呼ぶようになりました。



かたりベクラブ提供